

J A 佐渡赤泊だより

2024.6.1 (NO.90)

★ 赤泊小学校 食農教育応援！！★

本年度、赤泊小学校・赤泊地域づくり協議会・J A 佐渡赤泊事業所
合同で、赤泊小学校「学校田活動」をスタートしました。



毎日食べている「佐渡産コシヒカリ」が、どのように栽培されているかを、
子どもたちが体験することで、食の「安心・安全」＋「地域農業維持」に向けた取り組みと、
将来の「担い手」として「食」に興味・関心をもってもらうこと、また、1年間
を通じて作業活動や作業体験、生育ステージ観察に取り組み、食糧を生産する苦勞・工夫・
喜びを実感するとともに、米文化の多様性に気づいたり、米生産に携わる人の思いや
願いを感じたりしてもらいたいと考えています。

◎学校田設置と田植教室実施

5月9日、赤泊小学校の子どもたち全員で、田植え教室を実施しました。田んぼは、
安平保彦さんのほ場を活用しています。

子どもたちと保護者、教職員、関係機関（赤泊地域づくり協議会・佐渡市赤泊行政サ
ービスセンター・J A 佐渡赤泊事業所）を含め総勢92名が参加し、約3aの田んぼに
コシヒカリ苗を手で植え付けました。

子どもたちは、始めは恐る恐る田んぼに入り、「きゃー」といった悲鳴や「ヌルヌル
して気持ち悪ーい！」など声が上がりましたが、次第に植えるのにも慣れ順調に田植え
が進みました。

苗がなくなると「苗カモン！」「苗くださ〜い！」と苗をもらい、中には足を取られ
て田んぼに倒れ込みドロまみれになる子どもたちもいましたが、終始笑いが絶えないア
ットホームな雰囲気の中、田植えを終えました。

今後は、小学校5年生が中心となり、生育観察や生きもの調査を実施や、秋には全校
児童で稲刈り体験を行い、お米の試食を実施する予定です。

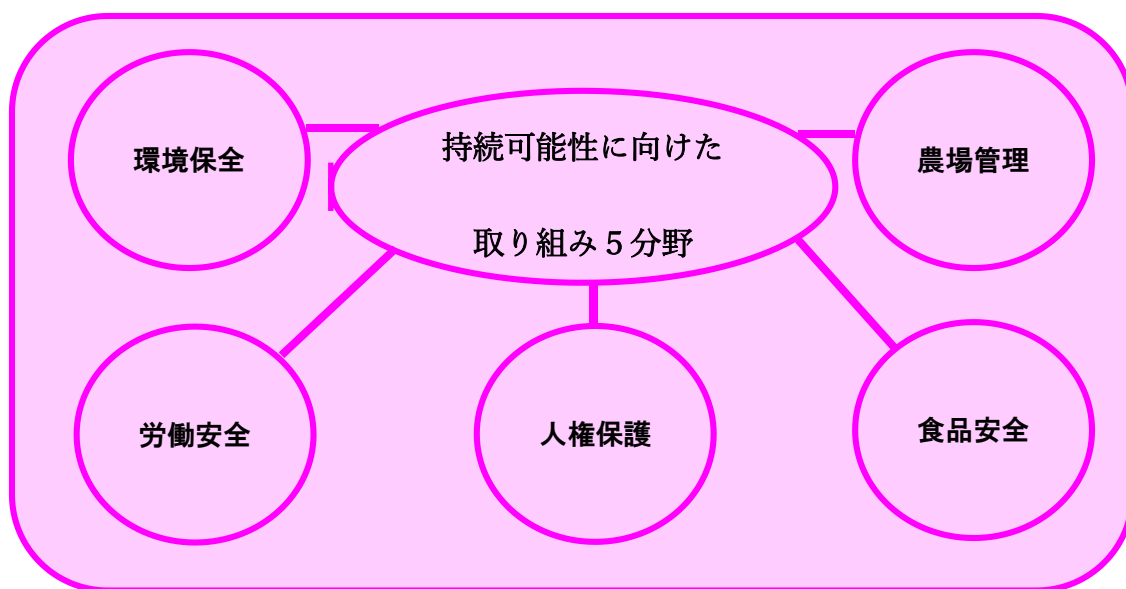


★ 農業分野から見た SDGs と GAP ★

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs の「S」持続可能性（サステナビリティ）とは、「これからも将来にわたって変わらずに続けていくことができる」ということです。SDGs は、その持続可能性の実現のために掲げられ、課題を統合的に解決しながら、持続可能なよりよい未来を築くことを目指しています。



GAP は農業者が守るべき法律や規範等をまとめたもので、食品安全・労働安全・環境保全・人権保護・農場経営管理の5分野について「持続可能性」を確保するために取り組むものです。

つまり・・・GAP と SDGs は目指しているところが同じなのです！GAP に取り組むことは、持続可能な世界をつくる SDGs にも貢献できる、ということが出来るのです。